

人間の本性を描き出す

なる野望をむき出しにする。

12

関西かぶりつき劇場



清流劇場「アルトウロ・ウイ」は、ついでも大
阪・浪速区インディベンデントシアター。
セカンド(撮影・古都米一氏)テス大阪)

ゲーテ、シラー、ソフォクレス。尼崎の劇団「清流劇場」は、ドイツやギリシャなど海外戯曲の上演を積極的に手がけている。国内で目にする機会が少ない作品も積極的に取り上げ、わざわざ関東から足を運ぶ観客もあるという。

最新作「アルトウロ・ウイ」10月19～23日、大阪・インディペンデンシアター・セカンド)は20世紀前半に活躍し、今も多くの演劇人に影響を与える劇作家ベルトルト・ブレヒトが1941年に書いた作品。アドルフ・ヒトラーをモデルに、独裁者の台頭を米・シカゴのギャング団の世界に置き換えて描いた寓意劇だ。

癒着と肅清

舞台の壁と床は、シカゴの市旗に使われる白と水色で統一されている。主人公のウイは、警察において暮らすきれないギャング団のボス。しかしある日、地元政治家ダグズバローと、野菜を市内の八屋に卸す野菜トラストの癒着をかぎつける。

ウイはダグズバローを脅し、護衛名目で野菜トラスト内に地位を確保する。立ち居振る舞いを彼者

を魅了。その裏では邪魔者を次々と肅清していく。昔からの仲間さえ例外ではなかった。

独裁の完成

ドグズバローは遺言状で、自らの保身のためにウイを引き入れたことを悔いた。取調官は殺される直前、ウイを伝染病になぞらえて「赤字」を白丸、黒い星」というウイのシンボルマーク。独裁者になったウイは、「保護を求めてるのはこの町だけではない」と拳を振り、さら

その底から現れたのは「赤字」を丸、黒い星」というウイのシンボルマーク。独裁者になったウイは、「保護を求めてるのはこの町だけではない」と拳を振り、さら

に教わり、堂々とした演説で人々を魅了。その裏では邪魔者を次々と肅清していく。昔からの仲間さえ例外ではなかった。

本公司演限らず、同劇団の舞台美術は毎回印象に残る。権力者の横暴を取り上げた風刺劇「こわれがめ」(2015年)では、舞台上に巨大な天秤を置き、その上で役者が演技した。正義か不正か、劇中の裁判の進展に合わせて天秤が実際に傾き、目が離せない。



2015年10月の公演「こわれがめ」

メモ

清流劇場は設立20周年。ドイツの劇作家ゲオルク・ビューヒナーの遺作を原作として、(2011年)が13年、ドイツのビューヒナー国際演劇祭に招かれるなど国際的な創作にも力を入れる。来年3月、伊丹・アイホールでギリシャ悲劇「オイディップス王」上演する予定。

◇第2金曜に掲載します。

古びぬ問い